

胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡切除の治療成績に関する研究のお願い

当科では以下の臨床研究を行っております。

この研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省，厚生労働省，経済産業省）に基づき、患者さんから同意を頂くことにかえて情報を公開することにより実施しております。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【研究課題名】

胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡切除の治療成績に関する検討—多施設後ろ向き研究—

【研究の意義・目的】

現在、切除ができる胃粘膜下腫瘍（代表的なものに GIST と言われている消化管間葉性腫瘍）の治療の第一選択は外科手術であります。腫瘍を損傷することなく、腫瘍が残ること無く切除することが重要であります。胃粘膜下腫瘍の外科治療において、5 c m より大きいものには開腹手術が行われ、5 c m よりも小さいものには、低侵襲である小さい開腹創による腹腔鏡下手術が行われます。低侵襲である腹腔鏡下手術においても、腹壁に傷がつき、胃のまわりの小網や大網などの組織を一部分切除する必要があります。一方、腹腔鏡を用いずに経口内視鏡のみで胃粘膜下腫瘍を胃の中から切除できれば、腹壁に傷がなく胃の切除も最小限になり、術後の機能障害を最低限度に抑えられることが予想されます。

本研究の目的は、当科および当院で胃の粘膜下腫瘍に対して内視鏡切除を施行した患者さんを集積し、胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡切除の安全性と有効性を検討することです。

【研究の方法】

2020 年 8 月までに当科および当院で胃粘膜下腫瘍に対して内視鏡切除を受けられた患者さんが対象になります。

【研究期間】

倫理審査委員会承認後から 3 年間 2023 年 5 月 31 日まで)

【個人情報の取り扱い】

本研究は、あなたのカルテや病院記録（病理組織診断報告書）などの診療録を利用する観察研究ですが、プライバシーの保護には十分配慮致します。この研究を通じて得られたあなたに関する記録は、研究事務局に集められて保管されますが、あなたのお名前はわからないようになっていきますし、研究の管理者以外の目にふれることはありません。

この臨床研究の結果は雑誌や学会で報告しますが、その時もあなたの名前や個人を特定できる情報は使用しません。

【研究への参加を希望されない場合】

今回の研究へ参加を希望されない患者さんは、下記の研究責任者までご連絡ください。患者さんに関するすべての医療情報の登録の中止と削除を速やかに行います。

【この研究の倫理審査について】

この研究は、本学の医学部倫理委員会によって、研究計画の妥当性が評価されており、患者さんの権利が守られていることや、医学の発展に役立つ情報が得られることなどが検討され、実施が認められています。

【質問してください】

この臨床研究についてわからないことや心配に思うことがあればいつでも遠慮なく担当医師にお尋ねください。

【研究組織】

大阪国際がんセンター 消化管内科 副部長 上堂文也、静岡がんセンター 内視鏡科 副院長 小野裕之、横浜市立大学附属市民総合医療センター 准教授 平澤欣吾
明石医療センター 消化器内科 部長 石田司、香川大学 消化器・神経内科学 講師 小原英幹、愛媛労災病院 消化器病センター センター長 森宏仁、NTT 関東東日本病院 消化器内科 大圃研、岩手県立胆沢病院 消化器内科第1 消化器内科長 萱場尚一、如水会今村病院 内視鏡治療センター センター長 橋口一利、大森赤十字病院 消化器内科 千葉秀幸、大阪赤十字病院 消化器内科 医長 山階武、杏林大学医学部 消化器・一般外科 教授 阿部展次

【本研究に関する問い合わせ先】

杏林大学医学部付属病院 消化器・一般外科学
研究責任者

阿部展次 竹内弘久

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

Tel : 0422-47-5511 (内線 7721)

E-mail: takeuchih@ks.kyorin-u.ac.jp